

オルチャ渓谷のランドスケープデザインに関する研究

日大生産工(院) ○林はるか
日大生産工 渡辺康

1 はじめに

イタリアのトスカーナ州の中央に位置するオルチャ渓谷は2004年に世界遺産・文化遺産に登録された。自然遺産ではなく文化遺産なのは、人が長い年月をかけて作ったものに対して与えられた遺産だからである。本論はランドスケープデザインの手法の観点からその価値の根拠を明らかにすることを目的とした研究である。

2 オルチャ渓谷について

トスカーナ州シエナ県にあるオルチャ渓谷は、図1にある通りカスティリオーネ・ドルチャ、モンタルチャーノ、ピエンツァ、ラディコーファニ、サンクィーリコ・ドルチャの計5つのコムーネを含んでいる丘陵地帯である。

シエナの領土であったオルチャ渓谷は、元は粘土質の土壌であり耕作に向かない土地であったが、約300年に渡る土壌改良の結果、図2-1、図2-2のようになだらかな田園風景が生まれた。現在は改良され、ワイン用のブドウ畑の栽培が盛んである。そしてその緩やかな斜面を描く土地に道を作り、糸杉が植えられた風景がよく取り上げられている。

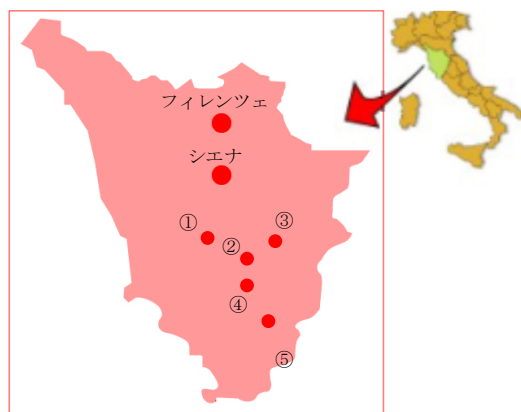


図1 オルチャ渓谷を示す地図



図2-1 土壌改良のオルチャ渓谷



図2-2 土壌改良のオルチャ渓谷

3 世界遺産登録について

オルチャ渓谷は二つの基準^{注1)}を満たした為、世界遺産に登録された。つまり土壌改良が行われたオルチャ渓谷が評価されたことになる。

4 調査概要

事前調査は文献調査、現地調査を行った。文献調査ではオルチャ渓谷に関する研究は日本のものはないが、土地収用法(1865)、都市計画法(1942、1967)、ガラッソ法^{注2)}(1985)に関するイタリアの研究はなされていた^{注3)}。

5 現地調査

現地調査ではモンタルチャーノ周辺を調査した。図3-1は2016年9月5、6日にトスカーナ州モンタルチャーノ周辺のオルチャ渓谷を撮影したものである。そしてそれを簡略化したスケッチが図3-2である。

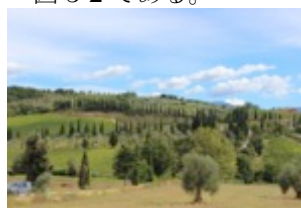


図3-1 2016年9月5、6日

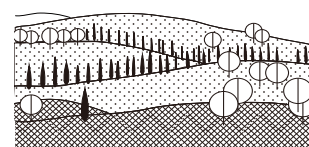


図3-2 図3-1を簡略化したスケッチ

モンタルチャーノ周辺で撮影した風景

6 調査方法

5つのコムーネを含むオルチャ渓谷の幹線道路沿いの風景を研究対象とする。最初は現地で写真を撮りスケッチしたが日数が限られていた。しかしGoogle mapで同様の作業ができる為、以下の方法で追加した。まず図4のようにGooglemapの機能を利

Study on landscape design of Val d' Orcia

Haruka HAYASHI, Yasushi WATANABE

用し 1/500 のスケール上で幹線道路に 100m ごとにプロットし、景観地形の形・植生の違いや位置を簡略化しスケッチを描く。

図 5-1 のように Googlemap を利用し、幹線道路上で撮影する。左右のスケッチを合わせる事で図 5-2 のようなパノラマのスケッチを作成する。(以下このスケッチをパノラマスケッチと示す。)このとき定点は 1/500 の画面上で 300 地点存在したので、パノラマスケッチは 300 カ所となる。



図 4 Google 上にプロットした点



図 5-1 カスティリオーネ・ドルチャ周辺での Googlemap 上の風景

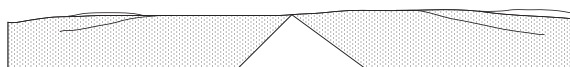


図 5-2 図 5-1 を参考に簡略化したパノラマスケッチ

7 調査結果

図 6-1、6-2 はカスティリオーネ・ドルチャ周辺の 163、164 地点であり、図 6-3、6-4 はサンクィーリコ・ドルチャ周辺の 208、209 地点、図 6-5~6-8 はモンタルチーノとサンクィーリコ・ドルチャの間にある周辺の 270~273 地点である。図は黒塗りの木や正円の木、柄模様で作成し、それぞれ糸杉と糸杉以外の植栽、牧草を表す。図 6-1~6-4 では糸杉は一カ所に集められ、図 6-6~図 6-8 では糸杉は 1 列に並べられている。それに対して図 6-1、6-3、6-4、6-5、6-8 では糸杉以外の植栽は植え方の秩序は無く幹線道路沿いや遠方の牧草地に植えられている。現地調査の図 3-2 では緩やかな地形に糸杉が並べられている。



図 6-1 カスティリオーネ・ドルチャ周辺の 163 地点



図 7-5 モンタルチーノとサンクィーリコ・ドルチャ周辺の 269 地点

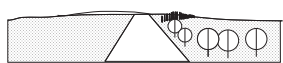


図 6-2 カスティリオーネ・ドルチャ周辺の 164 地点



図 6-6 モンタルチーノとサンクィーリコ・ドルチャ周辺の 270 地点

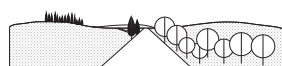


図 6-3 サンクィーリコ・ドルチャ周辺の 208 地点



図 6-7 モンタルチーノとサンクィーリコ・ドルチャ周辺の 271 地点

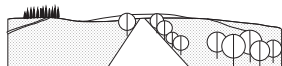


図 6-4 サンクィーリコ・ドルチャ周辺の 209 地点



図 6-8 モンタルチーノとサンクィーリコ・ドルチャ周辺の 272 地点

8 まとめ

調査結果から、両サイドの風景は全て滑らかな曲線より谷や丘や道が成り立っていた。オルチャ渓谷の景観は人工的な切土や盛土は見られず、直線による造成は行われていない。そしてオルチャ渓谷の価値の評価は、微地形を生かした景観によるところが大きいと言える。

9 参考文献

- 1) 『イタリア政府観光局(ENIT)』<http://visitaly.jp/unesco/val-dorcia>
- 2) 宮脇勝、西村幸夫、イタリアにおける風景計画の展開 日本建築学会計画系論文集、第 466 号、123-132、1994 年 12 月
- 3) 宮脇勝、西村幸夫、イタリアの都市計画法制度の基礎的研究—土地利用法 (1865)、都市計画法(1942、1967)、ガラッソ法(1985)を中心として—
- 4) 温井亭、ガラッソ法とイタリアの風景保全、日本造園学会、第 56 巻、第 5 号、1992 年
- 注 1) (4) 人類の歴史上重要な時代を例証する建築様式、建築物群、技術の集積または景観の優れた例。
- (6) 顕著で普遍的な意義を有する出来事、現存する伝統、思想、信号または芸術的、文化的作品と直接的にまたは明白に関するもの(この基準は他の基準と組み合わせて用いるのが望ましいと世界遺産委員は考えている。)
- 注 2) ① 1939 年自然美保護法を根拠に地方のモニュメント監督ないし地方自治体、市民団体が試みた風景計画。
- ② 1966 年になされた南部イタリア 29 観光地域のため景観を変えない人工物を作ることを制限する風景計画の提案。
- ③ 1985 年にガラッソ法に基づき策定された州レベルの風景計画。
- 注 3) ガラッソ法とは 1985 年にイタリアで制定されたガラッソ法は国土の風景の荒廃を防ぐため、海岸線から 300m 以内の国土の全域等を風景規制下に置くと同時に、州に風景計画の策定を義務づけ、策定までの間の暫定措置 さらに規制地域内等に建築禁止区域を設けることである。